

学校運営協議会に 児童が参加して 五者連携がスタート！

9月14日（木）、学校運営協議会を開きました。学校運営協議会委員の3人に、町教育委員会から教育委員さん、地域学校協働活動事務局の3人も加わっていただき、学校、家庭、地域、行政の方が揃いました。ここに、今回は児童代表として6年生が参加し、五者連携が具体的にスタートしました。初めての試みでしたが、好きなもの自己紹介で少し緊張をほぐしてから熟議に入りました。議題は次の2点です。



- 1 「つながる力」を大切にすると、どんな自分・学校・地域になれるだろうか。
- 2 なりたい自分・学校・地域を実現するために、できることを考えよう。



5つのグループで、付箋を使って意見を出し合い、おとなの方と言葉を交わしながら、子どもたちは真剣かつ和やかに意見を整理していきました。

今後、子どもたちは学級で全部の意見を共有し、「四小つながるプロジェクト」として、取組を具体的に考えていきます。周りのおとなたちの支えや後押しを受けて、未来志向の子どもたちの活動が展開するのを期待しています。

校内研修で 特別支援について 学びました

9月1日（金）、サポートクリエイターの松本ゆうこ先生とともに、特別支援教育について先生たちで勉強しました。「特別支援」というと難しく感じますが、その根本は、相手の困り感に気づき、その原因に関わることです。子どもたちが自分でできる力、人に頼む力、人を理解し助ける力を高め合って、だれもが楽しく、自分らしく生きる共生社会の担い手として成長することを目指します。特別な子どもだけでなく、おとなも含めて誰に対してもこんな関わり方をしたいなと思える内容でした。一部を紹介すると、



○前もって予告する（心の準備）

○作業等の流れに沿って順を追って書いて示し、見える化する

○苦手なことは少しでもできたら合格！

「1問できた、十分！」 「大丈夫、何度でも応援するよ」

私たちおとなも、こんな対応をされると、安心するのではないのでしょうか。ご家庭でも、お子さんへの関わり方、声のかけ方に生かしてください。ご心配やお尋ね等があれば、いつでも学校にご相談ください。

人権・同和教育研究集会での 心に灯ることば

8月26日（土）に、たくさんの職員で和水平・南関二町ブロック人権・同和教育研究集会に参加しました。参加者全員で聴いた午前中の講演には、元気の出る言葉がたくさんありました。

○人権＝「自分がされて嫌なことを人にしないこと」「他人の幸せを邪魔せずに自分も幸せになること」

○人権感覚が高まると、自分の姿を見ることができるようになる（人権教育は自分をのぞく鏡）

○強い人＝人に優しい人 いじめる人こそ心を病んでいる（いじめる背景までよく見よう）

○いじめる＝差別 何もしない＝無関心差別 何もしないからいいのではない

○障がいは人の中にあるのではなく、人と人の中にある

○努力をしても成功するとは限らないが、必ず成長する

○一人では何もできない でも、一人から始める

○学ぶとは心に明かりを灯すこと 教えるとはともに希望を語ること

四小は全ての教育活動の土台に人権教育を据えています。人権文化の花開く学校でありたいと思います。ご家庭でも、これらの言葉を話題にして、人権について親子で話す機会を作ってみてください。

